

令和 8 年度 第 2 回八幡市介護保険事業計画等策定委員会 議事録

日時：令和 8 年 8 月 3 1 日（月）14 時 00 分～15 時 45 分

場所：八幡市役所 会議室 5-2

出席者：委員 13 名、計画策定業者 2 名、事務局 4 名

議題：八幡市高齢者健康福祉計画及び第 10 期介護保険事業計画【骨子案】について

配布資料：八幡市高齢者健康福祉計画及び第 10 期介護保険事業計画（骨子案）

議事内容

	【第 1 章 計画策定の趣旨等】 — 策定業者より資料（第 1 章）をもとに説明。 —
委員長	第 1 章を中心に説明をいただきました。委員の皆様方から、説明について何か質問等がございましたら、ご発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。
委員長	2 ページの「世帯構成の推移と見通し」について、これは全国的な推計でしょうか、それとも八幡市の人口を前提にしたものでしょうか。
事務局	こちらは国の推計となっております。
委員長	ということは、この 2 ページのグラフは八幡市独自の状況ではなく、あくまで全国的な推計ということですね。
事務局	その通りです。
委員長	そうであれば、このグラフの見出しに「(全国)」などの表記をつけていただかないと、一般の市民が読んだときに八幡市の世帯構成の推移だと誤解してしまうのではないかと思います。そのあたりの表記について、修正をいただければありがたいです。
委員長	3 ページの「身寄りのない高齢者」とあるのですが、具体的にはどのような定義にされているのでしょうか。例えば、親族等とほとんどつながりがなく遠方に住んでいるなど、そのあたりに何か定義や合意があるのでしょうか。
事務局	一般に、国の第 10 期指針の中で使われている「身寄りのない高齢者」というのは、主に権利擁護や、住まいを確保する上での保証人に当たるような親族がいらっしゃらない方を指します。 ですので、ここでの主な定義としては、保証人に当たるような親族がいらっしゃらない、もしくはそうした親族とのつながりが絶たれている状態の高齢者の方というところが、一番イメージに近いのかなと考えておりま

	す。
委員長	高齢介護課でも、このようなケースが実際に増えているという理解でよろしかったでしょうか。なかなか賃貸住宅にも住めないといった方がおられるというのは、全国的な傾向としてあると聞いていますが、実態はいかがでしょうか。
事務局	特に住む場所に関して、高齢介護課に直接相談はございませんが、生活支援課に住まいを失って行く先がない、転居にあたり保証人が立てられないなどのケースがございます。また、有料老人ホーム等に入居するにあたって保証人がいないというところで、成年後見制度の紹介をさせていただくケースは年々増えているように感じます。
委員長	厳密な定義というよりも、やはり実際にそのような支援が必要な方がおられるということですね。よく分かりました。
	他、よろしいでしょうか。では、続きまして第2章の方をお願いいたします。
事務局	<p>【第2章 八幡市の高齢者を取り巻く現状と将来像、第9期事業実績と評価等】</p> <p>—資料（第2章）をもとに説明—</p>
委員長	第2章についての説明をいただきました。この計画は全体として第2章がほぼメインとなっており、かなりボリュームが多いかと思いますが、委員の皆様方からご質問いただければと思います。
委員	<p>今回のアンケート内容は、八幡市の課題となりうる部分を抜粋して掲載されたとのことですが、対象者が誰なのかが少し分かりにくいと感じました。</p> <p>8ページに対象者が記載されていますが、この調査結果はそれらが混在しているのだと思います。前半はおそらく「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の対象者で、65歳以上の介護認定を受けていない方の調査だと思います。</p> <p>しかし、30ページ目には「在宅介護実態調査」と書かれており、これは在宅で生活している要介護認定を受けている方のアンケート結果ですが、見ている限り掲載されているのはそこだけになっています。</p> <p>さらに、33ページに「介護事業所調査」、35ページに「ケアマネジャー調</p>

	<p>査」の結果がありますが、例えば、33 ページのタイトルを「介護事業所調査結果より」とするなど、誰が回答しているのかが冒頭から明確にわかるように整理したほうが親切だと思います。</p> <p>また、八幡市の介護の課題を捉える上では、この「在宅介護実態調査」で生活している方のアンケート結果が非常に重要になってくるのではないかと思います。今回の抜粋ではこの 1 点だけになっており、地域の方々の声が反映されにくい計画になってしまうのではないかと危惧しています。そのあたりはいかがでしょうか。</p>
委員長	<p>アンケートを行った上での集計からランダムに抜粋しているので、報告書を見たときに見づらくなっているのではないかとのご指摘ですね。私も、以前の計画のときにはこのように混在していなかったように記憶しています。今回からこのような形で混在している経緯はどういったものでしょうか。</p> <p>確かに、以前に比べて章の構成が薄くなったと感じますが、いくつかのアンケート結果が第 2 章にランダムに入っているため分かりづらくなっているように思います。いかがですか。</p>
事務局	<p>推敲を重ねる中で、調査結果の部分がかなり大きなボリュームを占めていたため、かえって論点が分かりにくくなるのではという意見も内部であり、掲載する設問を途中段階からかなり絞り込んだ経緯がございます。その過程で、ニーズ調査と在宅介護実態調査のバランスが崩れてしまっておりますので、前回の掲載方法も踏まえながら、載せる項目や分かりやすい見せ方について、もう一度ここは再検討させていただきます。</p>
委員	<p>関連して、26 ページの「サークル・グループに所属していますか」という質問についてです。所属している割合が 69.7% と非常に多くなっているのですが、前回いただいたアンケート結果を見ても私の中で見つけきれず、何か別の質問が複合された数字として出されているのでしょうか。</p>
事務局	<p>こちらの設問ですが、アンケート報告書では 10 種類ほどの活動への参加状況を質問していました。例えば、ボランティアへの参加や、就労に参加しているといった質問が 10 種類ほどあり、それぞれの活動の中で「何らかのサークルやグループに 1 つでも所属している」と答えた方が 69.7% という結果になっております。</p> <p>逆に、1 つも所属していない不活動の方を示すためにこのデータを作成したのですが、1 つのサークルやグループにも所属していない方が 16.1% という結果になっています。</p>

委員	<p>この数字だけを見ると、一見良い数字に見えてしまいます。しかし、課題としてあげるのであれば、それぞれの個別の活動における数値を見たときに、やはり皆さん所属していない、あるいは所属しているけれど活動していない、という課題が見えてくるアンケート結果だったと認識しています。</p> <p>14 ページの人口推計を見ますと、0～64 歳人口はどんどん減っていきませんが、65 歳以上の数も減っていく中で、65 歳から 74 歳までの前期高齢者が増えていくとなると、ターゲットはここになるのだと思います。そうした中、こうしたサークル活動やグループに所属している方が多いと予防につながると思うのですが、ここでは「みんなが所属していて良かった」という印象に見えてしまいます。読んでくれた人が「これは何とかしないとイケないね」と思えるような、課題感が伝わるような見せ方にしていきたいと思います。</p>
委員長	<p>そうですね。サークルやグループだけでなく、何らかの就労をされている方もこの中に合算されているのですね。見出しが「サークル・グループに所属していますか」となっているところにすべてのデータを合算して出すというのは、統計的にも正確な理解を反映していないのではないかと感じます。このような集計の仕方はあまり見かけたことはありません。意図的に数字を多く見せているように誤解される可能性もありますが、いかがでしょうか。</p> <p>これまでこのような形で母集団の結果を合算して出していた計画策定はなかったと思います。それ以外のところでも同じように合算して表示している箇所はあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>複数調査の合算を行っているのは、この「サークル・グループに所属していますか」の項目のみになります。</p> <p>意図といたしましては、今回は八幡市独自で、様々な活動への参加状況について、「所属も活動もしていない」という不活動の層がどれくらいいるのかを確認する構成にいたしました。町内会、老人クラブ、収入のある仕事、市民活動サークルなど、何一つ所属していない、社会との関わりが特に薄い層がどれくらいいるのかを抽出した結果が 16.1%でした。</p> <p>「みんな何かしらに所属している」と言いたかったというよりは、「どことも縁のない人が 1 割半ほどいる」というところを見せたかった統計なのですが、出し方の説明が不足しており、意図が伝わりにくくなっている面がございます。元の記載方法に戻すことも含めて検討させていただきます。</p>
委員	<p>それでは、元のアンケートの問いかけ自体がどのようなものだったのか、もう一度教えていただけますか。</p>

事務局	<p>調査項目としては、社会参加の状況について「以下のようなグループや活動等に参加していますか」という大項目に対し、「週４回以上」「週２～３回」「週１回」「月１～３回」「年に数回」「所属しているが活動していない」「所属も活動もしていない」という７つの選択肢を設けて聞いております。</p> <p>項目としては、「ボランティアのグループ」「スポーツ関係のグループやクラブ」「趣味関係のグループ」「学習教養サークル」「脳に良いトレ・今から始める筋トレ講座等」「老人クラブ」「町内会・自治会」「収入のある仕事」の８つの項目それぞれについて、参加頻度と所属の有無を聞いております。</p> <p>これら８つの項目すべてにおいて「所属も活動もしていない」を選んだ人を抽出した割合が、こちらの１６.１％となっております。</p>
委員	<p>やはり、報告書の文章表現やグラフの表記を、元の問いかけに忠実に、冒頭の形に合わせていただくことで、所属なしの課題の部分が強調される表記になるかと思います。そちらの検討をお願いいたします。</p>
委員	<p>１６ページ、１８ページ、１９ページのグラフについてです。少し遠目から見ると色味が似ていて、緑の濃い色と薄い色の違いなどが判別しづらいように感じました。見た人が見間違えたりしないように、もう少しはっきりとした色分けにしていただけないでしょうか。</p>
委員長	<p>合わせて、１２ページの上段の総人口の下にある「年少人口」「生産年齢人口」「高齢者人口」のグラフの色分けも、判別しにくいと感じました。もう少しはっきりとした緑や黄色などにしていきたいです。全体的に文字が少し小さい印象も受けました。１５ページのグラフについても、凡例の色が少し分かりづらいかと思いますので、修正をお願いします。</p>
委員	<p>３８ページからの「第９期介護保険事業計画における事業の実績と評価」について、以前に比べて色もついて見やすくなったと感じています。評価指数も星（★）に変わった点も分かりやすいです。</p> <p>ただ、各基本目標に対する「課題と対応策」の記述について、何に対して課題や対応策を書いているのかが少し分かりにくいと感じる部分がありました。例えば、「福祉就職フェアの開催回数」は目標を達成して高い評価（星５）になっていますが、その下の課題と対応策に就職フェアの見直しが入っているのは、少し整合性が取れないように思います。このあたりを精査していただければ、より見やすくなるのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>この各目標数値の横についている評価に付きましては、あくまで数値目標</p>

	<p>の達成状況を機械的に示しているものになります。目標値に対して 100% 以上達成していれば、星 5 が機械的に付く仕組みになっており、その下の定性的な評価と連動していない部分がございます。</p> <p>数値だけでは図れない課題や今後の方向性について文章で補完したいという意図があるのですが、初見で誤解を招かないようにするためには、数値の表の横の「評価」という項目は取ってしまった方がいいのではないかとという意見もございます。見せ方について改めて検討させていただきます。</p>
委員長	<p>補足しますと、第 9 期計画における実績と評価ということで、予算化されたものや介護報酬が伴うものに関して、計画通りに達成していれば評価が高くなります。</p>
事務局	<p>例えば、39 ページの「やわた未来いきいき健幸プロジェクト」の参加者数などは、元々の計画書の中に数値目標として定められていたものですか。</p>
委員長	<p>はい。前計画の範囲において、すべての事業に対して目標数値が設定されており、令和 4 年度から継続して盛り込まれておりました。</p> <p>これは市民参加型の健康づくりプロジェクトですね。これに参加された人数を指標として把握しているということですね。</p> <p>参加目標を達成していただく方が健康寿命の延伸につながるので、非常に良いことだと思います。</p> <p>一方で、41 ページの「福祉就職フェア」ですが、元々の目標が 1 回で、実績が 1 回だから評価が星 5 つとなっています。しかし、課題として「介護人材の確保、フェアの開催方法の見直し」と書かれており、評価 5 と課題の内容にギャップがあるため、誤解を与えないように工夫が必要ですね。現在、介護人材の確保は非常に厳しく、民間紹介会社の高額な紹介手数料問題などもあって事業者は苦慮していると聞いています。それは全国的な課題ですが、この件に関しては開催回数が 1 回だから星 5 つという評価の出し方は工夫したほうが良いかと思います。</p> <p>それから、20 ページの「将来推計」のところで、認知症の有病率の参考にされている九州大学の研究論文についてですが、これは算出方法の根拠となる計算式などを付け加えたほうが、より正確に理解できるのではないのでしょうか。八幡市独自のデータと混同しないためにも、簡単な式を載せていただくのが良いかと思います。</p>
委員	<p>3 ページの「身寄りのない高齢者への支援の明確化」という表現について</p>

	<p>て、計画の中で「明確化」とするだけでは、少しスピード感や具体性に欠けるのではないかと懸念しています。現在、ケアマネジャーのシャドウワーク（実質的な負担）が深刻化しており、アンケートでもかなり多くの方が本来の業務外の仕事をされているという結果が出ています。もう少し踏み込んだ内容、具体的な支援の方向性を盛り込んでも良いのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>3ページの記載につきましては、国の大きな指針をそのまま掲載しているものになります。実際の具体的な施策や事業展開につきましては、第3章以降の具体策の中で、身寄りのない高齢者への支援としてどのようなことを行っていくかを記載する形になっております。</p>
委員長	<p>国の方針を踏襲しつつ、八幡市としてどのような具体的な工夫やマネジメント、支援を行っていくかを、これからの施策の中で盛り込んでいくというイメージですね。</p>
事務局	<p>はい。具体的な事業展開についても、施策の中にしっかりと盛り込んでまいります。</p>
委員	<p>話は変わりますが、41ページの「シルバーライフライン（緊急通報システム等の事業）」について発言させていただきます。</p> <p>現在、八幡市において342件の利用があるとのことですが、民生委員としては非常に推奨しており、在宅の高齢者の方にお知らせしていますが、まだまだ「知らない、分からない」という方が非常に多いのが現状です。</p> <p>私たちは敬老のつどいや老人会の集まりなどの機会にこのシステムについてお話しして広めているのですが、今年度で「敬老のつどい」が終了すると聞いております。周知の機会が減ってしまうため、今後、高齢介護課の皆様にもさらなる周知・協力をお願いしたいと思います。利用される方も今後増えると思いますが、実際にこのシステムで助かっているというお声を何件も聞いております。</p>
委員長	<p>実際に非常に役立っている事業ですので、ぜひ周知を強めて活用していきましょう。</p>
委員	<p>40ページの「認知症サポーター養成講座」についてですが、受講者数が減ってきているという課題があります。</p> <p>受講者が減っている背景として、26ページの社会参加のデータにもリンクする部分があると考えています。現在、60代や70代の方でも生活維持のために仕事をされている方が増えており、こうした背景がサポーター養成</p>

	<p>講座の受講者減少に影響しているのではないかと内部でも分析していました。減少には理由があるということを指標から読み取れればと思います。</p> <p>また、課題と対応策のところ、「ステップアップ講座からチームオレンジへの推進」と一言でまとめてしまわずに、社協や地域で取り組んでいる認知症啓発の具体的な取り組みなどをしっかりと打ち出していただけると良いかと思います。</p>
委員長	この養成講座について、例えば小中学生や高校生などへの実施状況や今後の予定はどうでしょうか。
事務局	基本的には市民向けの講座ですが、今年度は京都八幡高校の一部でも実施していただくことになっております。また、高校の介護福祉の授業に施設職員が赴いて講座を実施するなどの取り組みも行っております。
委員長	<p>民間企業や様々な団体と連携して数字を伸ばす工夫もできそうですね。</p> <p>また、計画書全体のボリュームとして、第2章が非常に長く、第1章と第3章が短い構成になっていますが、このボリュームバランスについてはいかがでしょうか。第2章のアンケート結果などを別立てにするなどの分け方は難しいでしょうか。</p>
事務局	アンケートの調査結果についてはボリュームもあり関心も高いため、「調査結果に見る現状」として別章に切り分ける構成も一般的です。そちらも含めて検討させていただきます。
委員長	ありがとうございます。それでは次の説明をお願いいたします。
事務局	<p>【第3章計画の基本的な考え方、第4章施策の展開】</p> <p>—資料（第3章及び第4章）をもとに説明—</p>
委員長	第3章、第4章のご説明をいただきました。これについて委員の皆様からご意見等をお願いいたします。
委員	43 ページの基本理念にある「幸せ」という文言、また 47 ページの「健康で幸せに暮らす」という部分についてですが、今回の5つの基本目標の中で、具体的に何を達成できれば「幸せ」という目標が達成されるのか、そのつながりを分かりやすくイメージできればと思います。アンケートでも主観的幸福感に関する質問があったと思いますが、どの項目が上げれば幸せにつながるのかといった相関関係などが分かれば教えていただけます

	か。
委員長	<p>幸福感の定義は非常に抽象的で多種多様です。主観的な満足度として捉えるしかなく、なかなか難しい部分ではありますが、健康で幸せを感じていただくという大きな理念を掲げています。アンケート結果から何か抽出できるものはありますでしょうか。八幡市にはこれがあるから幸せだ、というようなものがあれば分かり良いと思います。</p>
事務局	<p>42 ページのアウトカム評価で、八幡市独自の目標値として「主観的幸福感の高い高齢者の割合」を定めております。主観的幸福感の高い層と低い層の分析についてはアンケート調査でクロス集計を行っておりますので、次期の目標を立てていく上で、社会参加や健康状態などの要素がどのように幸福感に繋がっているのかを整理し、評価指標の候補としても考えさせていただきます。</p>
委員	<p>45 ページなどにある「ほっとあんしんネット（地域包括支援センターの愛称）」について、現場の実感として、市民にあまりこの名前が浸透していないと感じています。電話のタイミングなどで認識していただくことはありますが、普段ネーミングで呼んでくださる方はほとんどいらっしゃいません。もしこの愛称を広めていくのであれば、周知・広報の方法についてもっと工夫が必要だと考えております。</p>
委員長	<p>「ほっとあんしんネット」のネーミングについては、2006 年に地域包括支援センターが制度化された際、「地域包括」という言葉が市民に馴染みにくいため、より柔らかな言葉を使おうと市民公募で決定した経緯があります。当時はロゴマークなども作り、官民一体となって進めました。しかし、現在では逆に「地域包括」という言葉が定着してきているため、愛称と正式名称のあり方や、今後の広報活動については今後の課題ですね。</p>
委員	<p>現在、八幡市の老人クラブの会員数は、65 歳以上人口の割合に対して約 10.5%（約 2,500 人）となっていますが、なかなか加入者が増えないのが現状です。今回の計画のデータを参考にして、加入率向上の取り組みに活かしたいと考えています。</p>
委員	<p>現在、シルバー人材センターには約 650 人の会員がおります。今後は、40 ページにあります「認知症」への理解について、会員の中でもぜひ広めていきたいと考えており、活動の中で認知症予防や啓発を推進していきたいと思っています。</p>
委員	<p>男山団地の高齢者福祉や住宅環境についてですが、15、16 年前の私の経</p>

<p>委員長</p>	<p> 験では、当時 360 世帯・1,000 人ほどが居住しており、ボランティアでガーデニングの園芸クラブなどを通じてコミュニティが維持されていました。しかし現在では、当時の中心メンバーが高齢化し、ボランティアの維持が難しくなり、シルバー人材センター等への委託に頼らざるを得ない状況です。 </p> <p> 建物の老朽化と人口の高齢化の「二重の高齢化（二重苦）」をどのように克服するかが最大の問題です。さらに、最近では外国籍の住民が増えるなど、環境が変化しています。 </p> <p> コロナ禍を機に、夏祭りや敬老のつどいといった住民同士のコミュニティ活動が中止され、コロナ前の状況には戻っておりません。これにより、高齢者の孤立がますます進んでいることを肌で感じています。社会参加は認知症予防としても非常に重要ですので、こうしたコミュニティの再生や支援をぜひ計画に盛り込んでいただきたいと思います。 </p> <p> 【閉会】 </p> <p> 皆様、貴重なご意見をありがとうございました。本日いただいた多くのご意見を今後の計画案に反映し、さらに精査していきたいと思います。第 10 期介護保険事業計画の作成や八幡市の高齢者福祉政策向上のため、引き続き皆様のご協力をお願いしたいと思います。皆様どうもありがとうございました。 </p>
------------	---